

COLUM

『先義後利』『不易流行』を
常に意識して

代表取締役 遠藤 秀文
Shubun Endo

東日本震災から11年が経過いたしました。2021年11月に当社は創業50周年を迎えましたが、創業以来、建設コンサルタントおよび測量調査の2つの柱を育ててまいりました。これら2つ柱に加えて、震災以降4つの柱を立ち上げ、日々研鑽をしております。一つ目は「空間情報コンサルティング」、二つ目は「環境コンサルティング」、三つ目は「まちづくりコンサルティング」そして四つ目は「海外コンサルティング」です。多柱化サービスの実現に向けて社員一丸となって、これら6つの柱を推進しております。

本社のある双葉郡富岡町は地震、津波そして原発事故の複合災害を経験した世界に前例のない場所です。そのため、様々な社会的な課題が山積しており、これらを解決するためには、多角的な視点で実証を重ねて先進的な技術を最大限活用することが求められます。一方で、この地域で培った技術やノウハウは、将来、国内外に水平展開し、広く社会に貢献できるポテンシャルを有しています。

近年、社会的な環境の変化が激しくなる中、当社は半世紀で培った建設コンサルタントの伝統を継承し、地域に山積する社会的な課題に対してICT技術を駆使し、様々な課題を可視化して解決策を導き出すサービスを育てております。これらを実現するために、社是である「先義後利」、「不易流行」を常に意識してまいります。

最後に、私たちは故郷の復興・再生を通じて、社会コンサルタントを目指してまいります。

KEY ふたばの
PERSONS

2022年6月に
ミャンマーから新入社員が
入社しました。

テイさん(右)
ナンさん(左)

ミャンマーの国立大学で土木技術を学び、卒業後当社に入社されました。日本での生活は初めての事ばかりですが、まわりの社員のサポートを受けながら、真剣に業務に取り組んでいます。

お二人からコメントをいただきました。

THEINT NANDAR AUNG(テイ)

入社してまだ分からないことばかりですが、東日本大震災での津波や福島第一原発の複合災害を受けた富岡町をはじめ、福島県のその他の地域のため、安心、安全で過ごせるまちづくりに貢献したいです。

NANG LOIN LOIN(ナン)

今住んでいる富岡町は震災の被害を受けた地域のため、様々な土木施設の災害復旧設計を学ぶ機会が多いと思います。復興のための設計に携わりながら、様々なことを学んでいきたいです。

FUTABA.

FUTABA.
Corporate Letter
→ vol.2
フォーカス

FOCUS

ふたばホームページ

New Face Interview

新入社員インタビュー

新たな技術で
文化財保護に貢献したい

事業推進部
高橋 咲月
工学部情報工学科
(岩手県出身)

新たな技術を取り入れながら、震災復興や文化財保護などに携わりたいと思っていました。大学では実在する建造物をVRで再現する研究をしており、ふたばでも点群やVR技術が活用されている点、今あるものをデータとして残し、活用するという点で通じる部分があり、興味を持ちました。

■実際に入社してみても
会社の印象はどうか？

県内に限らずペルーやインドネシアといった国外でも、大学や自治体など様々な機関と連携しながら多様な業務を手掛けていたり、UAVやレーザ、サーモなどの技術を取り入れていたり、常に新しいことに挑戦し続けている印象です。

■職場の環境はどうか。

部や役職に関わらず社員同士のコミュニケーションがとりやすく、木造の社屋は暖かな雰囲気です。

■どんな仕事をしていますか。
また、将来はどんな仕事をしたいですか。

取得したデータや写真等の処理結果から解析や検討を行っています。事業推進部は技術面の開発や提案から、よりよい成果品を挙げられるようふたばを支えている部だと思います。今後は、多くの人に文化財や福島のことをより分かりやすく、身近に感じてもらえるような手助けがしたいです。

ふるさと富岡町に
貢献したい

営業部
井出 大雅
数算学部地域数学科
(福島県出身)

故郷である富岡町に帰町し、貢献できる仕事をしたいと常々考えていました。そんな時に「ふたば」を知り、まちづくり業務に携わっていくことができるといふ点から、これからの富岡町を担っていきたいと入社を決意しました。

■実際に入社してみても
会社の印象はどうか？

富岡本社は、1階と2階部分が吹き抜けになっており、コミュニケーションがとりやすく、業務やその他に関しても連携がとりやすい環境です。私自身の課題も「積極的なコミュニケーション」なので、この環境を活かし、解決していきたいです。

■営業部に所属されていますが、
どのような仕事内容ですか。

顧客は主に行政機関であるため、入札を通じて業務を受注します。現在はまた研修期間ですが、色々ご指導いただきながら、日々業務習得に励んでいます。

■将来はどんな仕事をしたいですか。

「井出なら大丈夫」「井出なら間違いなし」と言っていただけるような営業職になりたいです。会社の看板を背負って営業に出ていくため、自分自身も成長できるよう、勉強し課題を解決しながら業務に取り組んでいきます。

培った土木の知識を
活かしたい

地域デザイン部
佐藤 鈴
工学部土木工学科
(福島県出身)

大学で学んだ土木工学を活かせる職業につきたい、生まれ育った福島県に恩返しをしたいという思いがありました。「ふたば」の会社説明会で震災時の話を聞き、また大学の研究で富岡町を訪れた際、まだ震災の爪跡が残る場所だと知りました。福島県出身者として何かできることはないかと入社を希望しました。

■実際に入社してみても
会社の印象はどうか？

初めてのことがばかりで戸惑うことも多くありましたが、優しい先輩上司に囲まれ、安心した状態で業務がこなせています。後輩に優しく教えられる人間になれるよう、日々の仕事を確実にこなしていきたいです。

■職場の環境はどうか。

富岡町はとても暖かく過ごしやすい環境です。会社では、研修などにも積極的に参加し、スキルアップにつながっています。また業務にも積極的に関わり、実践で学び、経験を得られるのは大きな強みだと思います。

■どのような仕事内容ですか。
将来はどんな仕事をしたいですか。

県や市町村などから発注を受け、土木設計やまちづくりに携わる業務を行っています。地域に寄り添った信頼できるまちづくり業務や、日々の暮らしに大きく関わる道路や橋梁の設計業務等に携わりたいです。

NEWS
01

日頃の感謝を想いに
50周年記念 記念品寄附について

2021年11月24日に当社は創業50周年を迎えました。それを記念しまして、日頃よりお世話になっております、双葉郡8ヶ町村並びに、当社の支社を置かせていただいている郡山市、東日本大震災発生時に富岡町の避難を受け入れてくださった、大玉村、三春町、田村市、さらには埼玉県杉戸町に記念品として「ポータブル電源」を寄附させてい

ただきました。

記念品は、災害発生時や避難所設営時のみならず、被災地域である各市町村様におかれまして再開されつつあります、各種イベントの際などにもご活用いただければと思い、選定いたしました。私どもはこれからも地域の皆様と地域の復興、発展に取り組んで参ります。

NEWS
02

令和元年10月
台風豪雨災害の対応で
表彰されました

令和元年10月台風豪雨災害により農業用水路、ため池排水路の災害復旧に関わった四條次長が一般社団法人 福島県建設産業団体連合会より表彰されました。また、河川災害復旧の測量設計に関わった富樫課長も福島県農業土木技術研究会より表彰されました。短期間で膨大な災害箇所について効果的な復興工法の提案、他災害との調整に尽力した姿は、若手技術者の模範となりました。

四條次長 富樫課長

NEWS
03

思い出の詰まった集会所
「整の箱-ふたば交流センター
from Minamisouma-」
プロジェクト

東日本大震災後、南会津の建築家・故芳賀沼澄氏を始め、芸術家等が手掛けた、南相馬市鹿島区の木造仮設住宅群の中央に整備された集会場。この集会場は、2017年にその役割を終え、2021年3月11日にふたば富岡本社隣の敷地に移築されました。当社では、震災遺構を保存・保全することに加え、社内外の交流・研修の場として活用しております。

フィールドは、ふるさとから世界まで。
FUTABA.
 株式会社 ふたば

✉ info@futasoku.co.jp 🌐 https://www.futasoku.co.jp

本社・支社

富岡本社 ☎ ㊦979-1113 福島県双葉郡富岡町曲田55番地 Tel:0240-22-0261 Fax:0240-22-0368
 郡山支社 ☎ ㊦963-0107 福島県郡山市安積3丁目157番地2 Tel:024-954-3832 Fax:024-954-3835

2019年12月に始動した 「マチュピチュ遺跡での3次元測量技術による 文化財の保全と活用のための基礎調査」

2020年に南米ペルーの世界遺産・マチュピチュ遺跡の保全調査が独立行政法人国際協力機構（JICA）が取り組む中小企業・SDGsビジネス支援事業の基礎調査に採択されました。急峻な地形のマチュピチュ遺跡では、土砂崩れや観光客の増加により貴重な遺跡に著しい損傷の懸念があります。精密に計測された3次元データがあれば、文化財の保全の他、観光利用や土砂災害など周辺地域の防災対策等へ利活用できる可能性を有すると考えて企画提案した調査となります。

2022年5月にペルー国へ渡航し、3次元データによる【遺跡保全状況の確認】および【観光や防災・インフラでの活用】に関するニーズ調査を中心に、文化省や関係機関等と協議やヒアリングを実施しました。本調査では、これまで文化省が中心となって計測したマチュピチュ遺跡の3次元データを閲覧・検証し、一定の技術の確認と様々な課題を抽出することができました。特に3次元データを基として、当社の技術でさらに均一で高精度な3次元データを追加することで遺跡保全に貢献できることが確認できました。

2022年1月、マチュピチュ村では豪雨に伴う土石流により大きな被害を受けました。マチュピチュ村役場を表敬訪問した際、ダーウィン村長に3次元データを活用した防災について提案を行ったところ、深く興味・関心を持っていただき、村長から【感謝状】をいただくといううれしい出来事もありました。

今後、東日本大震災の復興を通じて培った当社の技術をペルー国内で活かすことに加え、マチュピチュ村と友好姉妹都市であり、ふたばの本社がある富岡町が震災時にお世話になった大玉村のさらなる地域振興にもつながるよう、引続き様々な角度からアプローチを続けていきます。



マチュピチュ遺跡の現地調査



文化省副大臣等との協議

ダーウィン村長（右）からの感謝状

C O L U M

今私が思うこと



地域デザイン部所属
鈴木 彩香

人々の気持ちを汲み取れる技術者になりたい

入社して2年目、現在は地域デザイン部設計課に所属し、災害の被害を受けたインフラの復旧や、まちづくりに関する業務等に携わっています。当社の本社が位置する富岡町は、震災から10年以上経過した今でも帰還困難区域が残り、震災当時の風景のまま、復旧が追いついていない場所が残っています。そのような特殊な地域での、復旧や復興にハードとソフトの両面で携われるという、非常に

貴重な経験をさせていただいています。

今後は、復旧に加え、町の魅力を引き出し、町の賑わいを取り戻せるようなまちづくりを目指し、復興の一部を担っていきたいです。そのためにも、この地域に暮らす人と関わりながら、何が必要とされているか、何が求められているのかを考えて、それを形にできるような技術者になりたいです。

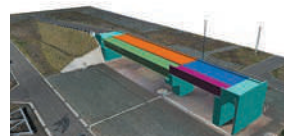
3次元化による BIM/CIMの活用で より多くの方に伝わりやすく

土木業界では、これまで2次元の図面が主流でしたが、近年は3次元モデルに属性情報を付与したBIM/CIMが普及し始めています。当社でも、福島ロボットテストフィールド（以下、RTF）内に建設された試験用橋梁の3次元化を行うBIM/CIM業務に携わりました。

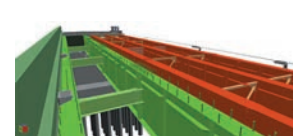
BIM/CIMには情報共有や業務の効率化、高度化のメリットはもちろん、立体的に構造物を表現できることから、住民説明会における合意形成や施工計画の立案などに活用できます。こうしたサービスの提供や技術力の向上に寄与するために、当社でもBIM/CIM業務に取り組んでいます。

この業務では、点検の試験等を行うRTF利用事業者が使いやすいモデル作成が求められました。このため、試験用橋梁に設置されているテストピースの調査結果を3次元モデルの属性情報として付与しました。また、詳細なデータ提供にも配慮し、上部工、下部工の主要な構造物は最も精度の高い詳細度400で3次元モデルを作成しました。さらに、本モデルの利活用が促進されるよう、周辺地形を点群データとして取得し、3次元モデルと組み合わせました。

近年頻発する防災やインフラの長寿命化の観点から、橋梁点検や維持管理などの分野でもBIM/CIMは至所で活用余地があると考えています。当社でも、これまでの経験を活かし、BIM/CIMの更なる利活用の推進に取り組んでいきます。



3次元点群データと3Dモデル



鉄筋の3Dモデル

いまだ続く原発事故の影響に ソフト整備方面から まちづくり復興へ



ワークショップ

現地視察

福島県双葉郡は、東日本大震災後の復興に関わるハード整備は充足されましたが、原発事故により今なお帰還困難区域に指定されている市町村もあることから、新たなまちづくりが必要となっています。

こうした背景から、当社ではソフト整備に関わるまちづくり業務に力を入れています。

例えば、住民有志が立ち上げた検討会の活動を初期段階から支援し、継続的に住民主体の復興まちづくりに携わっています。また、施設整備に伴い発生した空地の利活用について、官民合同の懇談会を運営し、上がった意見を尊重しながら地域プランを策定しました。これらの活動に際しては、VRにより計画を可視化することで、参加者が理解しやすく、合意形成が図りやすくなるよう取り組んでいます。

最新の技術を駆使しながら、今後も双葉郡のまちづくりを支援していきます。

葡萄ボランティア 活動感想

はじめての葡萄栽培ボランティアは新しい体験でした



令和4年度入社いたしました、富岡町出身の井出大雅と申します。週末は、当社のCSR葡萄栽培ボランティアにおいて積極的に参加をしております。これまで長靴を履き、手袋を付け、作業をするという経験をあまりしてこなかったということもあり、毎回新鮮な気持ちで臨んでおります。また、様々な分野の方や幅広い年齢層の方々と一緒に作業をすることによって、新たなネットワークも形成されております。

今後も積極的に参加し、さらなる自身の人脈形成とともに、富岡町の観光資源醸成に携わってまいります。